

平成21年度

学校経営計画
(スクールマネジメントプラン)

平成21年4月7日

京都府立嵯峨野高等学校

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「学校力」を向上させ、府民から信頼される学校づくりを行う。</p> <p>◇ すべてにおいて、安全・安心の学校づくりを行う。</p> <p>◇ 「Sagano Dynamics」を推進する学校づくりを行う。</p> <div data-bbox="249 774 771 948" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Sagano Dynamics : the way in which things or people behave and react to each other</p> </div>	<p>① Sagano Dynamics の具現化を目指して「学力向上フロンティア校」、「SPP」の各種指定事業を推進し、新たに「サイエンスレクチャーシリーズ」の取組を行うなど、普通科、京都こすもす科のそれぞれにおいて特色ある教育活動を展開できた。目的意識のある入学希望者を増やすため積極的に広報活動を行った結果、推薦入学者選抜の出願者数は過去最高となった。</p> <p>② 「授業力の向上」を目標に掲げ、年2回の生徒による授業アンケートや授業公開週間を実施し、授業の工夫・改善に積極的に取り組んだ。また、学習記録表の指導や週末課題の提示や点検等、きめ細かな指導を行い学習意欲の喚起と学習習慣の確立を図った。一方、「与えられた課題をやり切らせる」という点では課題が残った。授業・放課後・家庭での学習サイクルを一層機能させるため各教科間で連携をとり、学習課題の精選と量の調整に取り組まなければならない。</p> <p>③ 進路検討会や教科担当者会議を機能させ、全生徒の把握と指導方法を検討し情報の共有化を図るとともに、充実した進路ガイダンスや面談をとおして生徒の進路意識を高揚させた。今後、難関国公立大学をはじめとした生徒の第一希望実現のため低学年次の進路指導の重要性を確認するとともにさらなる指導方法の工夫改善を図る必要がある。</p> <p>④ 礼節ある態度の育成と規範意識の涵養については、継続的な指導により一定の成果をあげているが、さらなる指導の徹底が必要である。特に雨天時の傘さし運転等、自転車のマナーについては改善の余地がある。</p> <p>⑤ 安全で快適な教育活動が行えるよう、施設・設備を常に点検するとともに年間を通じた清掃活動計画のもとに、全教職員・全生徒で学校全体の美化に取り組んだ。節電・節水等の意識が不十分であるなど環境問題への意識が希薄な面も見られるため、環境問題に対する意識の向上を図る取組が必要である。</p>	<p>◇ 正しいルール・マナーの徹底と基本的生活習慣の確立</p> <p>◇ 校内環境美化の徹底と、環境改善の意識定着・実践</p> <p>◇ 学習のトライアングルの徹底と、確かな学力の定着・向上</p> <p>◇ 計画的な進路指導の徹底と、生徒の第一希望進路の実現</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校評価システムを計画的・機能的に運用し、教育の質の確実な向上を図る。	生徒による授業評価アンケート及び学校経営計画中間評価、総括評価を計画的に行うとともに速やかに結果を公表する。 学校評議員や保護者による外部評価を充実させ学校改革に生かす。		
	災害・防犯等学校の危機管理について、日頃から対応できるよう教職員・生徒の共通理解を深める。	防災・防犯等で更に工夫すべきことを検討し、安心・安全の観点から迅速な対応を行う。		
	学校経営方針を実現するため、教育課程の不断の検証を行う。	教育課程等検討会議で教育課程を不断に検証し、生徒の学力実態及び大学入試改革に対応できるよう必要な見直しを行うとともに、新指導要領を見据えた教育課程の検討を図る。		
教育課程の編成と実施	平成20年度の改編の成果が出るよう、教育課程を確実かつ効果的に実施する。	京都こすもす科と普通科第Ⅱ類人文系の教育課程を効果的に連動させながら週35時間授業を充実し、学力の伸長を図る。 普通科第Ⅰ類では週32時間授業と補習を効果的に連動させ、学力の充実を図る。		
	京都こすもす科の各系統の特色に応じた教育内容の一層の充実・推進を図る。	引き続き専門学科に関わる教育研究を行い、各系統の特色にふさわしいフィールドワークやサマーキャンプ、高大連携等のあり方を検討する。また、サイエンスレクチャーシリーズに倣って文系系統でも同様の取組を企画する。		
	授業を中心に据えながら、計画的な学習習慣の確立により学力の定着を図る。	授業準備とベル開始の励行により、50分の授業に集中する姿勢を身に付けさせる。 課題の提出を徹底させるとともに予・復習を習慣付けさせ、学習習慣の自己管理を促す。		
学習指導	主体的・発展的な学習を促し、学力の向上を図る。	生徒の進路希望、学力層に応じ、進学補習、チャレンジセミナー等を実施し高次の目標設定、維持につなげる。		
進路指導	自らの生き方や進路について主体的に考える力を育成するとともに、自己の進路適性を理解させる。	講演会・アゼンブリー・進路LHR等を計画的に実施し、進路情報を収集し、活用する能力・態度を養う。		
		学部・学科、職業研究を主体的に進める力を培い、志望理由の明確化に努めると同時に、進学希望者が大半を占める高校におけるキャリア教育の可能性について検討を開始する。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導 (続き)	生徒一人一人にとっての高い進路目標の設定とその実現に向けて指導の充実を図る。	HR担任による生徒・保護者との面談をきめ細かく実施し、個々の課題を明らかにし生徒自身による自己変革を促す。		
		実力テスト・模擬試験につき計画的な受験指導を行い、その結果を各教科の授業、補習に反映させる。		
		生徒の進路希望、学力層に応じ、進学補習、チャレンジセミナー等を実施し高次の目標設定、維持につなげる。		
		全教員一致した指導の方向性を確認し合う場として、進路検討会、教科担当者会議を充実させる。		
	教育課程が大幅に変更されている平成20年度入学生の指導体制を整備する。	2, 3年次進学補習体制の確定、進路関連書式の整備など次年度準備を完了させる。		
学校図書館	学習・情報センターとしての学校図書館機能を充実する。	図書館資料等を収集し、整理、保存し、生徒及び教師の利用に供する。		
		図書館活用に関して適切な指導を行い、読書意欲の向上、読書習慣の形成に努める。		
		全教育活動を通じて図書館の計画的な利用を促進する。		
生徒指導 特別活動等	基本的な生活習慣を確立させ、自主的かつ規律ある集団の育成と、生徒一人一人の個性の伸長に努める。	関係分掌間の連携を密にし、学年部の一致した指導により遅刻者の減少に努める。		
		傘さし運転等、自転車乗車のマナーを守らせる。		
		あらゆる場面で、あいさつ・言葉遣い等礼儀作法の指導を徹底する。		
		部活動への加入を奨励する。		
健康・安全 教育	心身ともに健康に過ごす環境づくりを行い、自己管理能力を身につけさせる。	生徒の実態に応じた対応を行う。		
		保健学習を行う。		
		教育相談会議を機能的に運営し、共通認識をする。		
学習環境	環境美化活動により、より良い学習環境づくりをする。	大掃除ごとに重点項目を示し、清掃活動を実施する。		
		日常清掃と「汚さない日常生活」を心がける気持ちを育てる。		
		ごみの分別を徹底するとともに持ち帰らせる指導を強化し、ごみの量を削減する。		
		環境保護の一環として省エネルギー（節電・節水）を呼びかける。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習環境 (続き)	樹木に囲まれた自然環境の中、校舎等の施設・設備の維持管理に努めより良い学習環境を保持する。	学習環境への関心を高め、冷暖房等へのコスト意識を学校全体で共有できるよう各種情報の提供を行う。		
研究・研修	指導力向上のため、研修の充実を図る。	分掌研修を内容・実施時期を見直し、より時宜にかなったものとする。		
		教科指導力向上のための外部研修を円滑にサポートする。また、研修対象について検討を行う。		
		各教員の個人研究や授業実践、専門学科の専門教育を研究紀要にまとめ発行する。		
情報・文書管理	個人情報保護の観点も踏まえ、セキュリティを確保しつつ効果的な校務管理体制を推進する。	本校独自の校務システムを円滑かつ確実に運用する。		
広報活動・生徒募集	普通科及び京都こすもす科に関する広報活動や特色ある取組の充実を図り、意欲をもった生徒の応募につなげる。	学科説明会等の開催、中学校・塾対象説明会及び関係機関等への訪問について、内容や方法の充実・改善を継続し、各系統の特色の一層の周知を図る。とくに文系系統のアピールや普通科Ⅱ類との連動において特段の配慮と措置を検討する。		
		各種広報資料の作成及びホームページの充実を図る。		
		各分掌・各教科と連携を密にして、ホームページに各種行事等をタイムリーに掲載する。		
家庭・地域社会との連	家庭・地域社会との連携を図り、開かれた学校づくりの取組を行う。	P T Aとの連携を充実し、家庭への情報提供を進める。とくに、メール情報配信事業の円滑な運用を図る。		
		「嵯峨野だより」の内容を充実させ、よりきめ細かな情報提供を行う。		
		より広い地域社会への貢献を目指し、さまざまな取組を模索する。		